

よりそう



種をまく人

「種をまく人」というミレーの絵がありました。30年前、私が東京都多摩市の中学校で働いていたころ、八ヶ岳移動教室の帰りに、山梨県立美術館に寄り、見た覚えがありました。ここで、今回の「種をまく人」はミレーではありませぬ。遠野まごころネットの長期ボランティア、奥田浩士です。

6月26日(火)朝礼のときは長部の復興製材所のお父さんたちが作って下さった木柱の表札「遠野まごころネット本部」下写真②の除幕式が行われました。

以来ずーと刺激を受けつづけている人だ。困難を避ける人。困難に立ち向かう人がいる。彼は後者のタイプで、自分もそうありたいと思っている。あの子とき、彼が机の隅を覗きのけりと顔をもたげる小さなすいせんを見つけた。彼はそれを見捨てず、地主さんの承諾を得てあらごらに植えている。私も含め、彼を見た方々の方が地元へ帰り、花の種を集めて彼に送っている。奥田さんは今荒れた被災地は無色の世界だ。そこに色を取りもどしたい。という、こころをひそかに種をまいて花を咲かせたい。その花に地元の方がサプライズする光景を見た。いろんなところに奥田さんは独特の気持ちを持つ方です。

奥田さんは前面に出ることをあまり好まない人で、インタビューを申し入れても、断られました。彼に了解を得たうえで、他の人の撮影、紹介という形で記事にしました。

武蔵野まごころ連の市川ノゾムさんのことばです。

「奥田さんは独特の美学をもつ人。歳長ではなく、現場チーフという形で知人に紹介する。理屈ではなく、現場に身を挺して活動する方だ。私は、小さな班で彼と一緒に行動する機会があった。それ



「種をまく人」
ミレー